

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第630号 2022年8月14日

鈴木真主任司祭 主日ミサ説教

2022年7月3日 年間第14主日 C年
ルカ福音書10章 1-12 17-20節

「出掛ける時には、何も持たずに行きなさい。」イエスが弟子たちを宣教へと派遣するたびに、言われる言葉です。

いつも言うことですが、宣教の主体はあくまで神さまご自身。わたしたちが自分の力量や才能で何かをするのではなく、この「わたし」を通して、神さまがはたかれる…それが「宣教」というわざに他なりません。だからこそ、何も持って行く必要はない。必要なものは神さまご自身がいつも用意してくださる…ということなのでしょう。

とは言うものの…わたしも仕事に際して、いくつかのアイテム、というか道具を使っちゃってます。例えば子どものミサの時の絵本。でもこれは、何かを狙ってとか、何らかの計画のもとに、というわけではなく、たまたまでした。

わたしは子どもの時から本を読むのが好きで、子どもの頃はよく絵本を読みました。大人になって、有隣堂という本屋で働いた時、子どもの頃に読んだ絵本が無性に欲しくなって、幸い社員割引で本が買えたので、絵本を買いまくりました。それがけっこうな量になっちゃって、でも司祭になった時、これは子どもの読み聞かせに使える…とふと思いました。そして、いろいろな絵本の中に「福音」がさりげなく置かれてることに気づきました。そんなわ

けで絵本を使うようになったんですが、長年やってくるうちに少々むきになっちゃったのも確かです。さすがに手持ちの絵本だけでは足りなくなって、たまにまた有隣堂に絵本を探しに行くんですが、不思議と「福音」が置かれてる絵本に出会うんですね。もっともわたしは食いしん坊なので、何気に食べ物関係の絵本に目がいっちゃうんですが…でもこれはまさしく、神さまのわざだ！と感じています。いつも神さまが、わたしを通してはたらいておられるんだ、と。

最近、うれしいことがありました。わたしはこれも長年、横浜雙葉学園の中1の宗教科の授業を担当していますが、毎回授業の終わり5分から10分、ギターを弾いて生徒たちと聖歌を歌うようにしていました。それがこのコロナ禍で歌が歌えなくなって、ずっと悶々としてたんですが、最近、音楽の授業でも歌ってる、ということを知って、ついに今月から再開できました。生徒たちには「心持ち、小さめの声で歌ってね」とか言っちゃって。いや～、でもやっぱりうれしいです。久しぶりにギターを弾いて、弦をおさえる指がめっちゃ痛いんですけど、またその痛みもうれしかったりして。でもこれも、何かを狙って始めたことじゃなくて、たまたまでした。10代のころギターを弾き始めて、でもその後バンドでドラムをたたくようになったので、ギターは眠ってたんですけど、教会学校のリーダーになった時、ギターで伴奏すると子どもが元気よく聖歌を歌う、ということに気づいたからです。以来、ギターはわたしの商売道具となりました。さすがに若い頃のように指が

動かなくなってきましたが、何よりもわたし自身がギターを弾きながら若い子たちと聖歌を歌うことが楽しいので、これは神さまからもらった贈り物かな…などと思っています。

コロナ禍になってできなくなったことが多いですが、だからこそ改めて、今まで普通にできていたことが大きな恵みなんだ、ということにも気づかされました。当たり前に行っていることを通して、神さまがそこではたらいておられる…聖歌を共に歌うことの中にも、そんな神さまのわざを感じました。

この「わたし」がいつも呼ばれてるんだけど、そのわたしを使って「神さま」ご自身がはたらかされてる…そんな「宣教」というわざの不思議さに、共に目を向けたいと思います。

